

農林水産省が初めて主催 「薬用作物の産地化に向けたシンポジウム」で日漢協も活動を発表

2019年1月30日（水）、農水省の主催で「薬用作物の産地化に向けたシンポジウム」が開催された。

農水省はここ数年、

生産者が開催する薬用作物栽培の検討会や

生産体制強化の施策、

需要創出のための補助事業などを行ってきた。

薬用作物産地支援協議会(薬産協)※が

全国8か所で主催した地域説明会でも

補助事業の概要を説明するなど、

薬用作物の国内栽培拡大が重要な課題として取り組んでいる。

そのような中、

農水省が初めて主催して行われた当シンポジウムは、

国が国内栽培拡大をさらに推進する意向を強く感じられるものであった。

【会場内の様子】



シンポジウムは、農林水産大臣政務官のあいさつで始まり、農水省の行う補助事業による取り組み状況や、野菜に比べて技術情報が少ない中、新たに開発されている栽培技術などが紹介された。

シンポジウムの後半では、全国4か所（長野、宮城、福井、熊本）での、実際の取り組み事例が紹介された。

会場は行政関係者や産地の方々など300名を超える参加者で満席となり、

薬用作物の栽培に関する関心の高さを改めてうかがうことのできるシンポジウムであった。

※[薬用作物産地支援協議会](#)：薬用作物の産地形成を促進するため、一般社団法人全国農業改良普及支援協会および日本漢方生薬製剤協会が2016年に設立した団体

日漢協からは小柳裕和氏が登壇し、「漢方薬の国内需要動向と中国の状況」について薬産協の立場から講演した。

漢方薬の成り立ちや漢方製剤の市場動向、生薬の品質を安定化するための品質規格や、生薬の日中の調達状況などの現状を伝えた。

今後も生薬の生産拡大に向けた生産者とメーカーの情報交換や産官学の連携、実需者であるメーカーと生産者のマッチングが重要であることを述べ、講演を締めくくった。

会場後方には、展示コーナーが設置された。

日漢協からは、漢方薬の原材料である生薬や、漢方の基本的知識に関するパネルを展示。

多くの参加者が立ち寄り、生薬の写真を撮ったり香りを嗅いだりするなど熱心な様子うかがえた。



小柳 裕和 氏（日本漢方生薬製剤協会）



当日のプログラム

〔日時〕 2019年1月30日（水） 13:30～17:00

〔場所〕 農林水産省7F講堂

- 1.挨拶（農林水産大臣政務官 高野 光二郎 氏）
- 2.漢方薬の国内需要動向と中国の状況
（薬用作物産地支援協議会 小柳 裕和 氏）
- 3.補助事業による薬用作物の産地化に向けた取組状況
（農林水産省生産局地域対策官付課長補佐 市橋 康弘 氏）
- 4.薬用作物の栽培技術の開発について
（農業・食品産業技術総合研究機構 次世代作物開発研究センター 畑作物研究領域 大潟 直樹 氏）

〔産地の取組事例紹介〕

- ①長野県（長野県薬草生産振興組合 組合長 牧 幸男 氏）
- ②宮城県
（宮城県加美町農林課副参事兼農業振興係長 後藤 勉 氏）
- ③福井県（福井県高浜町産業振興課課長補佐 田原 文彦 氏）
- ④熊本県（熊本県あさぎり薬草合同会社社長 福田 圭吾 氏）